

三ヶ島葎子資料室講演会

回	年度	タイトル	講師等	分野	講演内容等
1	平成10年度	三ヶ島葎子と原阿佐緒 ～三ヶ島村の歌～	田井 安曇 歌人	三ヶ島の歌	原阿佐緒資料特別展示（9/24-9/30）原阿佐緒記念館から資料を借用し開催。講演会当日午前中、三ヶ島葎子の会主催の文学散歩が行われた。
2	平成11年度	原阿佐緒の短歌の世界	扇畑 利枝 歌人	原阿佐緒	扇畑氏は原阿佐緒記念館の設立に尽力。当日は同館の清水善衛館長も来館。
3	平成12年度	葎子晩年の短歌	大河原 惇行 歌人 田井 安曇 歌人	晩年の歌	葎子資料を点検中のボランティア（葎子の会会員）から進行状況等も報告。
4	平成13年度	葎子の歌	大河原 惇行 歌人 田井 安曇 歌人 村永 大和 短歌評論家	鼎談	『三ヶ島葎子』掲載の「三ヶ島葎子百首選」の短歌から講師のテーマにそって選抜し解説した。 ・葎子唯一の歌集「吾木香」にあまり掲載されていない初期の歌について ・アララギに入会した時に、親友の原阿佐緒は斉藤茂吉に、葎子が島木赤彦に師事したのはなぜか ・雑誌「青鞥」にも深く関わっていた「新しい女」としての葎子について
5	平成14年度	一医師が読んだ三ヶ島葎子日記	稲垣 卓 精神科医	葎子日記	日記から読み取れる葎子の心理や精神的葛藤について解説した。
6	平成15年度	私がみた歌人・三ヶ島葎子 ～初期の歌を中心に～	沢口 芙美 歌人	初期の歌	初期の短歌のみずみずしさや、葎子の想像力について解説した。
7	平成16年度	三ヶ島葎子の散文世界	松本 鶴雄 文芸評論家、 日本大学教授	散文	葎子の短歌世界や実生活と比較しながら、散文の世界について解説した。
8	平成17年度	学生時代の三ヶ島葎子	義煎 房江	女子師範	葎子が過ごした明治末期の女子師範と所沢の街の様子などを、日記や短歌から想像するとともに、義煎氏が過ごした終戦前後の女子師範や昭和期の所沢の街と比較した。
9	平成18年度	現代3女流が語る三ヶ島葎子	平林 静代 歌人 沖ななも 歌人 さいとうなおこ 歌人	鼎談	三ヶ島葎子の歌を、Ⅰとして青春期の歌（沖ななも選）、Ⅱとして結婚生活期の歌（平林静代選）、Ⅲとして闘病生活中の歌（さいとうなおこ選）の3時代に分け各10首、また、Ⅳとして全時代を通じ各3首、「丈の高い歌（視線をキッと上にあげている歌）」という視点で選びその解説と、歌や日記から垣間見える葎子像について語った。
		「みなみのための子守唄」ほか	団長 井花 照光	合唱	
10	平成19年度	現代短歌と三ヶ島葎子	東 直子 歌人 佐藤 弓生 歌人 松村 由利子 歌人	鼎談	歌壇ほか多方面で活躍中の若手女流歌人3名による鼎談を行った。「子どものうた（松村由利子選）」、「動植物のうた（東直子選）」、「耳を澄ますうた（佐藤弓生選）」というそれぞれの視点で選んだ三ヶ島葎子の歌と現代短歌を比較しながら、葎子の歌の特徴について語った。 ※今回の鼎談での現代短歌とは、戦後の歌と定義

三ヶ島葎子資料室講演会

回	年度	タイトル	講師等	分野	講演内容等
11	平成20年度	男から見た三ヶ島葎子	黒瀬 珂瀾 歌人 奥田 亡羊 歌人 目黒 哲朗 歌人	鼎談	奥田亡羊氏 葎子は、足跡と歌のスタイルが一致しており、「小宮村時代」「巢鴨時代」「谷町時代前期」「谷町時代後期」と4つにわけ、それぞれ気になった歌を解説した。 目黒哲朗氏「うるおいを感じさせるもの」 葎子の日記や歌は、生活のみずみずしさやうるおいを感じるものであった、と解説した。 黒瀬珂瀾氏「吾木香の《吾》」 歌に込められた「われ」から、葎子が晩年のしみじみとした世界に行きつくまでの変遷を解説した。
12	平成21年度	三ヶ島葎子の生き方	沖ななも 歌人	生涯	葎子の生きた時代、その生き方について考察した。
13	平成22年度	晶子と葎子 その思想と暮らし	松村 由利子 歌人	生涯	20代初めの葎子が「女子文壇」に投稿した短歌を見出したのが選者の与謝野晶子だった。葎子の残した短歌や文章から、葎子の思想、生き方、暮らしの様相を見ていくとともに、若き日の師。与謝野晶子との類似点・相違点、二人それぞれの魅力を探った。
14	平成23年度	三ヶ島葎子をめぐる男性歌人たち	奥田 亡羊 歌人	歌論	浪漫派からアララギの写生を経て自らの歌風を確立した葎子。その歌の変遷を若山牧水、島木赤彦、古泉近千樫の三人の男性歌人との出会いから考察した。
15	平成24年度	三ヶ島葎子の祈りの言葉	東 直子 歌人	歌論	三ヶ島葎子の特異な人生を反映した短歌に託した想いを読み解き言葉の魅力に迫った。
16	平成25年度	「青鞥」の歌人、三ヶ島葎子と原阿佐緒	秋山 佐和子 歌人	歌論	平塚らいてうの「青鞥」に参加した三ヶ島葎子と原阿佐緒。どのように「新しい女」になろうとしたか、結果はどうだったか、彼女らの歌から考察した。
17	平成26年度	三ヶ島葎子 花おりおり	大河原 惇行 歌人	葎子の花の歌	三ヶ島葎子資料室開設20周年記念事業として、発刊した冊子『三ヶ島葎子Ⅲ 花おりおり』に合わせ、葎子の残した短歌の中から、花の歌に着目し、歌に登場する花について解説をいただき、当時の葎子の気持ちや生活を探った。
			吉野 貴子 埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター 職員	植物の解説	
18	平成27年度	生に寄り添う花々	大河原 惇行 歌人 平林 静代 歌人	対談	三ヶ島葎子が詠んだ花の歌について、対談を行い、葎子の人生等について考えた。また、講演前に、ハーモニカ演奏に合わせて葎子の短歌の朗読を行った。
			さいとうなおこ 歌人 笹本 皓子 ハーモニカ奏者	朗読	
19	平成28年度	子どもを詠む～歌人・三ヶ島葎子の母の心～	池田 はるみ 歌人	生涯	三ヶ島葎子が詠んだ娘みなみの歌を読み解き、歌人三ヶ島葎子の母としての気持ちや生活を探った。また、講演前に、葎子の短歌の朗読を行った。
			さいとうなおこ 歌人	朗読	

三ヶ島葎子資料室講演会

回	年度	タイトル	講師等	分野	講演内容等
20	平成29年度	三ヶ島葎子、いのちの賛歌	久保田 登 歌人	生涯	三ヶ島葎子が教員として赴任した小宮小学校時代に詠んだ短歌や日記を読み解き、歌人三ヶ島葎子の文学に対する身の処し方などを探った。また、講演前に、今回の講演会で取り上げる葎子の短歌の朗読を行った。
			さいとうなおこ 歌人 黒津 三枝子 三ヶ島葎子資料室 山田 眞代 ボランティア	朗読	
21	平成30年度	リアリスト三ヶ島葎子と「少女の日のおもひで」	佐伯 裕子 歌人	晩年の歌	大正9年から連載された少女たちのための連作「少女の日のおもひで」を読み解き、葎子にとって、孤独な晩年に向かう日々の中で思い出を歌うことの意味や少女の日とは何であったのかを考えた。講演に先立ち、葎子とみなみの写真のスライドショーを見ながら、所沢メンルコールによる合唱「みなみのための子守唄」のCDを鑑賞した。
22	令和元年度	三ヶ島葎子 その時代のリアル、生活のリアル	藤原 龍一郎 歌人	関東大震災を中心とした生活に関する歌	歌人はそれぞれの時代の現実に生きている。葎子も、生きていく上で否応なく、時代の影響を受けていた。青鞥への参加も、原阿佐緒の問題による「アララギ」破門や関東大震災にあい、三日間、野宿をせざるをえなかったこと等は時代が個人に与えた影響といえる。人生の大筋から、生活の細部にまで、その人の生きた時代の影響を逃れることはできない。葎子の作品から、そのような時代の影響を読み取り、その時代と生活のリアルを探り出した。
-	令和2年度	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			
23	令和3年度	三ヶ島葎子の祈り	秋山 佐和子 歌人	生涯	三ヶ島葎子の40年の生涯を、日記や歌と共にたどりながら、葎子の歌の魅力や、歌に込められた「祈り」について講演を行った。埼玉県女子師範学校時代、西多摩郡小宮村尋常小学校の代用教員時代、巣鴨や麻布谷町での結婚生活、与謝野晶子に師事し「青鞥」「スバル」に発表した作品の数々、病身を養いながら離れ住む子を思い「アララギ」で境涯詠を確立していった葎子の「祈り」とは何だったのか、歌の魅力を解説した。
24	令和4年度	浪漫派の葎子・写実派の葎子	沖ななも 歌人	生涯	与謝野晶子に教えを受けていた初期から、「アララギ」に参加して島木赤彦に師事していた時期を経て、ロマンと写実が融合しあって独自の境地を開いていった葎子の作品の魅力を探った。
25	令和5年度	葎子と子規～食べものくらし～	さいとうなおこ 歌人 関谷 英雄 元所沢市職員	対談	郷土の歌人・三ヶ島葎子と正岡子規が食べたものをテーマに対談を行い、2人が生きた時代を、食べものという視点から読み解いた。
		物語る写実—いま読み返す三ヶ島葎子	藤島 秀憲 歌人	歌論	写実すること、物語ること、一見すると正反対に見える二つのことを考えながら、三ヶ島葎子の作品を読み返した。